

磯根魚類の分布調査—クロソイ稚魚の住みかは一

以前、この原子力環境だよりで磯根魚類の食性調査の結果について報告しましたが（79号：2006.6）、今回は磯根魚類の稚魚が住んでいると思われる岩礁域の藻場に実際に潜って、生息していた稚魚の観察を行ったので、その結果についてお知らせします。

調査方法

調査を行った場所は泊村照岸前浜の岩礁域で、食性調査の際にもお世話になった泊村漁協の高橋さんに協力していただいて実施しました（右写真）。

調査は2006年7、8、9月にそれぞれ1回行われ、海岸線から沖に向かって長さ200mのロープを設置し、そのロープの両側に出現した魚類を観察及び写真に撮影しました。なお、10m毎に水深、底質、植生（海藻の種類）も記録しました。

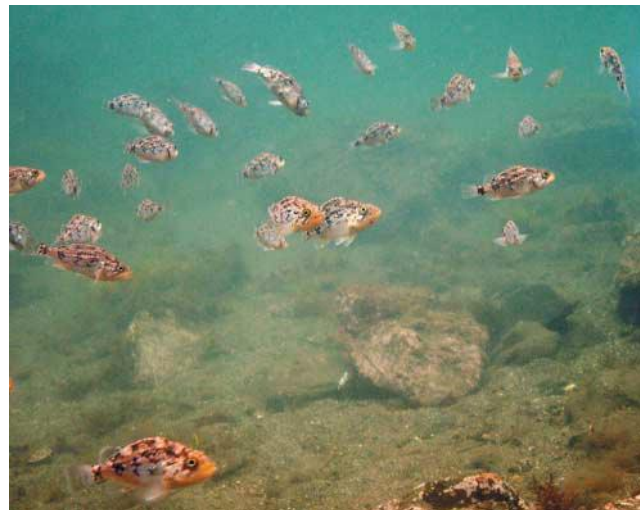


調査風景（ロープ設置）

調査結果

この調査時に出現した魚類はクロソイ、クジメ、アイナメ、ウミタナゴ等でしたが、とくにクロソイ稚魚の出現が目立っていたことから、クロソイ稚魚について詳しく観察しました。

クロソイ稚魚の出現場所は、離岸距離（岸からの距離）0～100mで、水深は1.5～5mでした。全長は、7月で3～4cm、8月で3～6cm、9月で5～8cmで、全長3～4cmの個体は体色が黄褐色で黒色の斑紋がみられましたが（右写真）、全長5cm以上の個体では斑紋が消えて体色が灰黒色



群泳するクロソイ稚魚

となり成魚と同様の体色となっていました。また、7～8月の全長3～4cmの稚魚は海岸線付近の藻場内で群泳していましたが、8～9月になり全長5cm以上になると、それより深場で起伏の多い岩礁域の岩陰や隙間付近で単独または数個体で生活していました。

今回の調査結果から、泊地区周辺におけるクロソイ稚魚の成長段階による生息場所や行動様式の一部が判明しましたが、今回の調査でみつかった稚魚が成長していつか私たちの食卓を賑わせて欲しいものです。